

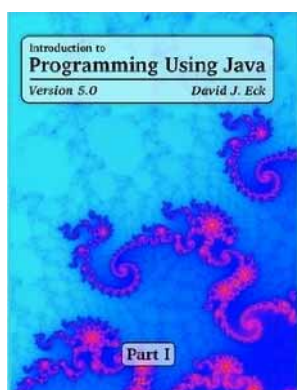
10月に入り肌寒くなってきました。外を歩いていると木々の紅葉から冬がすぐそこまで迫っているのを感じます。暑さをしのぐために、講義の後でよく友人達とカフェに駆け込んでいた夏の英語学校の時期がなんだか懐かしく思います。大学の友人は、「イリノイ州の気候は、日本と比べると秋と春が極端に短く、気付いたら夏が終わって凍てつくような冬になっているよ。」とっていました。私は寒さが苦手なので、防寒対策として大学からバスで30分ほどの所にあるマーケット・プレイスに厚めのコートを買に行きました。

本報告では、10月の講義内容、および参加したイベント行事について報告致します。

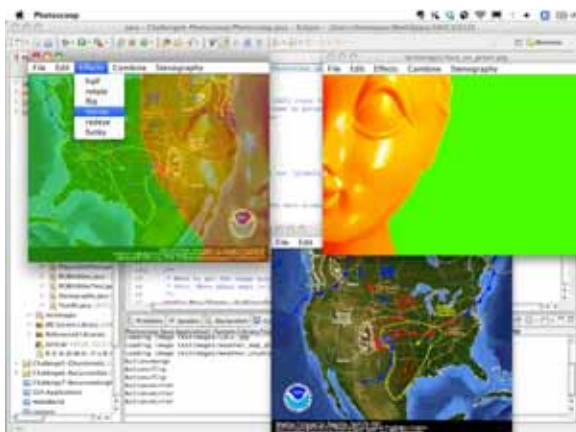
講義について

- CS125

とにかく講義の進度が早く、この約2ヶ月間でJavaの入門書を一冊終える程のスピードで講義が進みました。プログラミングの課題も3週間に2つくらいのペースで出ていて、これまでに5つの個人課題と2つのグループ課題が出ました。課題は分量が多くこなすのに多くの時間を要するため、予習に回せられる時間をほとんど確保出来ていないのが現状です。最近作成した個人課題としては、「PhotoScoop」という画像を編集するアプリケーションを作成する課題がありました。課題を終えるためには、作成済みの雛形となるプログラムに、画像の拡大・縮小、回転・反転、RGB値の操作による色彩の調整、合成といった機能を追加する必要がありました。これらの課題の難易度は高く、先月分のレポートでも報告したように入門クラスとは思えない内容になっています。



CS125の教科書



PhotoScoopの動作画面

- CS225

授業の進度に着いていくことが出来ず、この科目については課題もあまり提出出来ていない状況です。講義の中では、様々な木構造について扱い方について学んでいます。しかし、学ぶ構造自体の種類が多かったり、各アルゴリズムをコーディングしていったりと、私が学部時に学習したことよりも深い内容を扱っているため、現在のリスニング力で講義内容を理解することは非常に困難な状況です。また、学習経験のないプログラミング言語のC++を扱えていないことも理解を苦しめている一因になっています。そのため、聞き取れなかった事を持ち合わせの知識を使って推測するという方法に限界がきているといえます。予習をしっかりとすれば、改善されたかもしれませんが、時間を割り当てることも出来ませんでした。リスニング力を高めようと講義には出席しているものの、ディスカッションの多い演習の時間は休みがちな状況です。

- CS231

この授業はCS125やCS225と比較すると、内容的に難易度が低く日本で学習済みの内容が多いので良い復習になっています。精神的にも講義に出席することが他の講義に比べて楽です。また、講義毎に i-Clicker というボタン集計装置を使って簡単な Quiz が行われるという特徴があります。学生としても楽しみながら講義に参加することができますし、教える側にしても講義中に学生の理解度を把握することができると思われるので、非常に便利な仕組みだと感じています。

一方で、出題される宿題の量が圧倒的に多いという特徴があります。講義毎に Web 上で行う課題が出題され、週ごとにも時間のかかるペーパー課題が出題されます。そのため、提出期限を守れないことが度々ありました。

- ESL114

講義に休みがちになり、課題もあまり提出できていません。細かいことに気を使いすぎて手が進んでいないのが原因だったと思います。講義のスタイルとしては、Academic Writing の手法を学び、課題となるエッセイの下書きをするということを行います。これまでに、パラグラフの構成、Cause&Effect、剽窃への注意といった手法を学びました。また、受講者でチームを作ってエッセイの評価を互いにするといったことも行いました。

- CS の講義から感じられること

これらの講義を通して感じられる UIUC の CS の優れている点として、修学を支援する体制が整っていることが挙げられます。ただ単にレベルの高い講義が行われているだけではなく、疑問を感じたり課題に行き詰まったりした場合は、とにかくオフィス・アワーに行くことをしきりに促しています。また、学生同士でディスカッションをする時間も頻りに設けられており、考え方やアイデアをぶつけながらお互いを高めていく仕組みが組み込まれていることがアメリカの CS 教育の特徴だと感じています。

Thai Night

タイの友人に誘われて、"Thai Student Association" という学生団体が主催する "Thai Night" というイベントに参加してきました。学内にはスポーツだけでなく、様々な学生団体やサークルがあります。留学生の多いイリノイ大学には、国ごとのサークルも多々あり、"Thai Student Association" もその中の一つです。イベントの中では、タイの伝統音楽やダンスを学生が披露していたのですが、素人目には非常に完成度が高いように感じました。また、屋台では市内の美味しいタイ料理店の料理が \$5 という格安の値段で振る舞われていて大変賑わっていました。

これまでに、留学してから様々な国の人と接してきて感じていることとして、各々が自国に誇りのようなものを持っていることが挙げられます。もちろん、人によって強弱はありますが、このことは全ての人に対して言えることだと思います。また、この特徴が強い人ほど、会話の中で「日本はどのなの？」といったことをよく尋ねてくるような気がしています。私自身、留学生活の中でもっと日本のことを知り、対外にアピールできるようになりたいという思いが高まっています。このようなことを実際に体験できることは留学の醍醐味なのかもしれないと感じています。



Thai Night での写真

Boston Carrier Forum への参加

昨年度に本学から留学された先輩のアドバイスを元に、10/22-24 に開催された世界最大級の日英バイリンガルのための就職イベントの Boston Carrier Forum に参加してきました。このイベントは日本人留学生を対象とするものとしては最大規模のものとなっていて、三日間で延べ約1万人の参加者がいるとされています。当日の会場での日本人留学生の多さには非常に驚き、本当にここはアメリカなのかとさえ思えるほどでした。

私は先月から意気込んでいた割に、あまり準備ができておらず、結局前日は遅い時間帯までボストンのホテルで企業研究と履歴書の作成するはめになりました。留学先での試験や研究、課外活動等の忙しい合間を縫って、事前にしっかりと準備をしている他の留学生の凄さには屈服する所があります。このフォーラムへの参加を通して、他の学生から良い刺激を受けたと共に、自分を見つめ直す良い機会になったと思っています。



Boston Convention Center からの風景

Halloween

Conversation Partner の Sam に誘われて、オハイオ州にある Cedar Point にレンタカーで行って来ました。Cedar Point は、エリー湖(五大湖の一つ)と接しているローラー・コースターで有名な遊園地です。現地では、Halloween にちなんだイベントをやっており、中には仮装しながら遊園地を満喫している客もいました。

ここで少し Conversation Partner について説明しておきます。Conversation Partner は、週に1~2回ほど外国人学生と会話をする、現地語を母国語とする人のことを指します。私の通っていた英語学校にも Conversation Partner の制度があり、現地の学生がボランティアとして参加しています。

Sam は、アジア圏の文化に興味を持っている Parkland College (コミュニティ・カレッジ) の学生で、Conversation Partner を通じて友人になりました。彼はコミュニティ・カレッジで日本語や韓国語を学びながら、イリノイ大学への編入を目指しています。将来は日本で英語の先生をしたいとも言っていました。私は Sam が受けている Parkland College の日本語の授業を聴講させていただいたことが何度かあります。授業のスタイルとしては、学生が興味を持っている事柄や実用的な言葉をテーマとして取り上げ、その中で用いられている文法や漢字の特徴を教えていくという流れでした。講義の特徴として顕著に現れていたことは、とにかく生徒に日本語を使って話してもらうことに重点を置いていたことです。その甲斐もあってか、日本語を学び始めて1年ほどの学生でも、かなり上手な日本語を喋っていました。高校・大学入試で良い点数を取ることを主な目的として(現在は少しずつ変わってきているかもしれませんが) あまり実用的とはいえない英語を教えている日本の英語教育とは対照的だと言えます。

以上で、10月分の報告とさせていただきます。